

(様式第4号) 交流・文化施設等運営管理計画検討委員会(第3回ホール検討委員会) 会議概要

1	会議名	交流・文化施設等運営管理計画検討委員会(第3回ホール検討委員会)
2	日時	平成23年3月4日 午前10時00分から午後0時00分まで
3	会場	上田市役所3階 第1応接室
4	出席者	津村委員長、関田委員、渡辺委員、成沢委員、関口委員、金井委員
5	市長アドバイザー	佐田アドバイザー
6	市側出席者	伊藤交流・文化施設建設準備室長、中部文化振興課長、室賀交流・文化施設建設準備室長補佐、若林交流・文化施設建設準備室長補佐、滝澤文化振興課長補佐、
7	運営支援業務受託者	A.T.Network 近江氏
8	公開・非公開等の別	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
9	傍聴者	6人 記者2人
10	会議概要作成年月日	23年3月5日

協議事項等

- 1 開 会 (伊藤交流・文化施設建設準備室長)
 - 2 会議事項
- (1) 運営管理計画骨子案の検討について
- 委員長：第2回のホール検討委員会を進めるにあたり、1回目、2回目の委員会を踏まえ、もう少し踏み込んで、足りない部分や修正したほうが良い部分など、ご意見をいただきたい。
- 事務局：(資料説明)
- 委員長：資料の「上田の顔となり、地域の文化力・活力を生み出す“総合的事業”」に関して、まず「交流・文化施設のメインとなる事業の実施」についての意見を。
- 委員：「市民総合文化祭」と、このフェスティバルとの差別化をどう果たしていくかを考える必要がある。プロを中心として市民参加も行うという考え方もできる。
- 委員：市民芸能祭、市民をあげて、市民の中の文化団体が一堂に会して幾日間、といったスケジュールを組んで行うことがあって良いのではないか。
- 委員：このフェスティバルは音楽・舞台芸術中心に夏と冬で行うのはどうか。以前から話が出ているように、常にホールで何かをやっていて、市民が訪れる機会が多いという事は必要。
- 委員：総合文化祭になってくると、彫刻、写真、書道関連、幅広い市民の、広い意味での文化の祭典みたいなことになってしまうが、フェスティバルは舞台ものが中心になるということで、そういう捉え方で良いかと思う。
- 委員長：もう1つは、美術館とのコラボレーションをどのように考えていくかということ。それと、期間について、2週間開催しようとする、スタッフは2ヶ月くらいこのフェスティバルにかかりきりで本当に大変な作業になると思う。これが夏と冬の年2回となれば、実際は1年中関わっているような印象。
- 委員：関わる市民も1年中頭から離れない状態になる。
- 委員：夏はあちこちでフェスティバルをやっているということを考えると、特徴付けが難しい。クラシックに偏らない上田のユニークな、もうちょっとポピュラー的な内容でつくることができればと思う。
- 委員：サイトウキネンフェスティバルとの差別化が重要。
- 委員長：内容としてはクラシックも当然入ってくると思うが、サイトウキネンフェスティバルと同じタイミングで開催すれば、例えば県外の人たちが一度に両方観られるという魅力につながるか。
- 委員：現実には難しいと思う。
- アドバイザー：外から上田市にお客さんをお呼びして活性化ということも考えれば、他市がやらない内容で努力して人を呼んだほうが、足が向くのではないか。季節も、夏季は全国でフェスティバルが多いため、出演者の取り合いになる可能性もあり、逆に冬の祭典とする考え方もある。冬にイベントをやって成功している例もある。
- 委員：演奏家としては、夏の長野は魅力的で、半分楽しみながら、地域の人とコラボレーションす

るなど、活動を広げることができる。

委員：サイトウキネンも夏でなければあれほど人は集まらないと思う。一方で、吹奏楽と合唱は、お盆前まで地区大会、県大会というスケジュールが定番化しているため、時期をうまく仕組んでいかなければ、いちばん聴いてもらいたい子どもたちに聴いてもらえなくなる。

委員長：総合文化祭的なものというのは、今やっているか。

事務局：上田文化会館での文化祭、地域の総合的な文化祭、丸子のセレスホールでの芸能祭など、実績はあるが市全体での総合文化祭については新しい交流・文化施設という拠点ができることをきっかけに文化関係団体等と広くつながりを持ちながら作りあげていくものと考えている。季節はやはり秋に行っているケースが多い。

委員長：フェスティバルの関係については、時期の問題をもう一度また検討するものとする。次にフランチャイズについての意見は。

委員：結論的にいうと大賛成で、オーケストラの方もそういうことを求めていると思われる。オーケストラが定期的に来ることによって、演奏会を聴くだけでなく、付随的な、地域との連携の意味でも効果がある。それと大事なものは、どこのオーケストラを選択するかということ。

委員長：フランチャイズといっても、もう少し内容を緩くするような方法はあるか。

委員：契約の内容は様々で、定期演奏会をやるだけというケースもあれば、地域にカルテットを作ったり、練習場所として使ったりというケースもある。

アドバイザー：音大や芸大などの学生オーケストラも考えてはどうか。

委員：そうした大学のオーケストラも水準は高い。合宿を兼ねて来るということも考えられる。ただ、以前の市民アンケートでは、やはり一流どころの演奏を聴きたいとの意見も多い。

委員長：公共のホールがオーケストラとフランチャイズ契約を結んでいる例は少ない。

委員：市の方針で積極的に取り組んだところ、文化のまち、音楽のまち、ということで、市のイメージが大きく変化した成功例もある。

委員：ここに来るオーケストラが面白いプログラムで、素晴らしいソリストなどがいれば、群馬や関東の方からお客さんが観に来るという可能性もある。

委員：自主事業費の何分の1かはこれに費やされる。だからそれなりの決断が必要。

委員：毎年演奏会を開催するからといった条件等で金額の交渉をしていく事になると思う。

委員長：例えば「年間何日間は練習用に大ホールを無料で貸し出します」という交渉の方法もある。

委員：定まった練習場がないオーケストラにとっては嬉しい。

委員長：練習場としてホールを使い、オーケストラの団員が例えば100人市内に宿泊すれば、市の経済効果としても非常に大きい。

アドバイザー：宿泊代や食事代なども含めれば、ホールだけでなく市全体で考えた時に大きな効果がある。

委員：フランチャイズはお金が掛かるかもしれないが、それが学生のオーケストラにするというのは、結局彼らは音楽家の「卵」でしかない。教育活動という事は可能かもしれないが。

アドバイザー：学生だとアウトリーチ活動を行いやすい。

委員：ただ、学生たちが例えば子ども達に教えるのが上手かということ、必ずしもそうではない。

アドバイザー：芸大の4年生などであれば、技術だけならほとんどプロと変わらない学生も大勢いる。

委員長：技術を見せるだけであれば十分。ただし、教えることが上手でないと、逆に音楽嫌いを作ってしまう可能性もある。

委員：学生のオーケストラを、フェスティバルに招聘するという手法はある。でも、定期的な公演はやはりプロが良いと思う。

委員長：フランチャイズは大変なことではあるが、大切な事業だと思う。街の中にいろんな意味での広がり、相乗効果を生むと思われる。次に「鑑賞事業」の「魅力的な公演の実施」について何かご意見を。これは、年間のバランスをプロデューサーがどう見ていくかということになると思うが。

委員：上田市内のホールで事業がバッティングすることは避けるべき。

委員：チョイスされるプロデューサーのバランス感覚がよければ良い事業はできる。

アドバイザー：自主事業の採算性については、まず市側の考え方がしっかりしていることが大切。

委員長：どうしてもプロデューサーのセンスによって決まる部分が多いのは現実であり、そこを十分考慮することが大切。観客育成公演やワークショップ系の部分についてはもう少し膨らませたほうが良いのではないかと思う。

委員：定着させるには、ある程度回数が必要。

委員：いろんな事業の中でアウトリーチを取り入れていくような考え方。

委員：学校の先生方がホール運営の方々と話し合いながらやっていく、つくっていくということができることが大事だと思う。

委員：育成事業の参加型ということで、上田は近年、「上田城跡能」を開催している。

委員長：ぜひ幅広いジャンルを網羅していければと思う。「文化活動支援」についての意見は。

委員：例えば上田出身、近隣出身という形でデビューリサイタルを行うことはどうか。

委員長：いろんな意味でのコンベンションについても考慮しておきたい。大型コンベンションは、集客という大きな魅力はあるが招聘の難しさも大きく発生する。

委員：コンベンションの誘致には宿泊先も必要。

委員長：いくら会場が良くても、周りの施設と、また観光地がないとだめだとも言われている。

委員：コンベンションは、全館を使うというケースも多いため、その場合は市民の皆さんが使えなくなってしまう。

委員長：ただ、来場数はすごい。全国規模のものであれば街も活性化する。引き続いて、「運営管理体制・組織について」も意見をいただきたい。

委員：当初は直営、次の段階で指定管理者制度導入という順が良いのではないか。

委員：使用料の設定が市民には大きく影響する。直営・指定管理者という運営組織のあり方が使用料や管理にも影響するのではないか。

委員長：直営・指定管理者のいずれも一長一短な部分もあるが、やはり当初は直営そして何年とは特定できないが、追って指定管理者制度導入へと向かうことが良いであろう。

委員：使用料にはさまざまな考え方や意見があるのできちんと考えていかなければならない。

委員長：運営組織としてはやはり「館長」が要となる。この人材にバランス感覚が必要。またはよほど優れたプロデューサーを2名という方法か。舞台技術者の人員についてご意見を。

委員：技術者3名というのは無理であろう。率直に言って少なすぎる。

委員長：技術スタッフは職員であったり、委託であったりさまざまである。最近では新しい概念として個人嘱託契約などもある。

委員：いずれにしても責任のある対応ができる技術者が必要。

委員長：やはりホールを2つ持つという点を考え、それに対しての予算というものはやはり市としては覚悟しないといけない部分もある。

アドバイザー：上田市にある既存施設の技術者との支援関係があっても良いのではないか。

委員長：ホールの技術職員は危険を伴う作業にあたるため、この配置にはきっちりと対応をしておく必要がある。舞台上の作業は本当に命がけのところであり、それを熟知して安全管理を徹底することを重視したい。何か全体を通してもしご意見等々あればどうぞ。

委員：(なし)

委員長：今日の資料はあくまでもこれはまだ骨子案であり、全部やりますということではないということのを了承いただきたい。今日は様々な意見をいただいたが、この骨子案でとりあえず進めていくということでどうか。

委員：(了承)

(2) その他

- ・今後の委員会開催日程について

事務局：次回の委員会については委員長と調整の上改めて開催日を決定したい。

委員：(了承)

3 その他(なし)

4 閉会(津村委員長)

